



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月9日

上場会社名 井村屋グループ株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 2209 URL <https://www.imuraya-group.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大西 安樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長ファイナンス室長 (氏名) 富永 治郎 (TEL) 050-1791-2014
 四半期報告書提出予定日 2023年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	9,121	4.0	△92	—	100	△69.0	39	△82.4
2023年3月期第1四半期	8,766	13.1	87	—	325	—	223	—

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 75百万円(△57.9%) 2023年3月期第1四半期 179百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	3.01	—
2023年3月期第1四半期	17.12	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	35,526	18,393	51.7
2023年3月期	34,107	18,684	54.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 18,362百万円 2023年3月期 18,653百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	28.00	28.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	28.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	22,000	2.4	400	△65.0	500	△67.3	300	△77.6	22.93
通期	46,500	4.1	2,000	0.4	2,100	△8.1	1,400	△13.1	107.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年3月期1Q	13,086,200株	2023年3月期	13,086,200株
2024年3月期1Q	2,038株	2023年3月期	1,919株
2024年3月期1Q	13,084,211株	2023年3月期1Q	13,084,399株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスに関する感染症法上の分類が5類に移行したことに伴い、景気は緩やかな回復基調となりましたが、原材料価格やエネルギーコストの上昇により、依然として先行き不透明な状況で推移しております。

菓子・食品業界におきましても、原材料費、エネルギーコストが上昇する中、物価上昇に対するお客様の節約志向の高まりなどの消費行動の変化もあり、厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは2023年度、中期3カ年計画「Be Resilient 2023 ～新しい時代をしなやかに生きる～」の最終年度を迎え、財務目標並びに非財務目標の達成と今後の中長期プランを策定する重要な年次となります。

活動テーマを「倦まず・弛まず・積極果敢」として、パーパスである「おいしい！の笑顔をつくる」を追求して、サステナブル経営を目指し、目標達成に向けたイノベーションの実行に取り組んでおります。

グループ全体の成長戦略の一環として三重県津市中勢北部サイエンスシティ内に竣工した井村屋株式会社「あいつFACTORY」は輸出やEC販売強化に向け、計画に沿って順調に稼働しております。

また、井村屋株式会社で販売している三重県大台山系有数の渓谷である香肌峡から採水されたミネラルウォーター「香肌峡のやさしい水「めぐるる」」の採水地を井村屋グループ株式会社にて取得しました。採水したミネラルウォーターは日本酒ブランド「福和蔵」の仕込み水にも活用しており、今後、貴重な水資源の更なる活用を進めてまいります。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高については、井村屋株式会社の冷菓カテゴリーや井村屋フーズ株式会社におけるOEM受託商品の売上が順調に推移しました。その結果、連結売上高は、91億21百万円（前年同期比4.0%増）となりました。

損益面では、原材料価格、エネルギーコスト、物流費用が上昇する中、商品価格の改定を行うとともに、継続して生産性向上活動に取り組みました。第1四半期においては設備投資に伴う減価償却費の回収に至っておりませんが、今後、公表数値に沿った利益の確保を見込んでおります。

以上の結果、営業損失は92百万円（前年同期は87百万円の営業利益）、経常利益は1億円（前年同期比69.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は39百万円（同82.4%減）となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

流通事業（BtoC事業）の中心となる井村屋株式会社では、冷菓カテゴリーや点心・デリカテゴリーの売上が増加しました。BtoB事業の井村屋フーズ株式会社では、スパウチ商品の受注が順調に推移しました。

以上の結果、流通事業の売上高は80億5百万円（前年同期比4.4%増）となり、セグメント利益は1億17百万円（同54.4%減）となりました。

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

（菓子カテゴリー）

「片手で食べられる小さなようかん」や「もっちりぷるんわらびもち 黒糖」は順調に推移しましたが、鶏卵不足により生産調整を行ったカステラ商品の売上が減少しました。

以上の結果、菓子カテゴリーの売上高は18億62百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

（食品カテゴリー）

チューブ入りの使い勝手の良さが好評をいただいております「トッピング」シリーズの「かけるご褒美 あん×バター」が順調に推移しました。冷凍食品では「4個入冷凍パックまん」シリーズや「ゴールドまん」シリーズの売上が増加し、新商品「井村屋謹製Pizzaぱん」も好評を得ました。井村屋フーズ株式会社の食品加工事業では、屋外活動の活発化に伴いスパウチ商品の受託加工が順調に推移しました。

以上の結果、食品カテゴリーの売上高は12億27百万円（前年同期比3.0%増）となりました。

(デリーチルドカテゴリー)

「豆腐類」では「硬め豆腐」や「そのまま食べて美味しい豆腐」が順調に推移し、前年同期と同様の売上となりました。

以上の結果、デリーチルドカテゴリーの売上高は3億3百万円（前年同期比0.1%減）となりました。

(冷蔵カテゴリー)

発売50周年を迎えた「あずきバー」シリーズが順調に推移し、売上金額は前年同期比106.2%となりました。7月1日の「井村屋あずきバーの日」には全国3会場（東京、大阪、名古屋）において、無料で「あずきバー」を配布するサンプリングイベントを4年ぶりに開催し、大きな反響をいただいております。また、「やわもちアイス」シリーズでは、初めてかき氷に着目した新商品「やわもちアイス 抹茶氷」が好評をいただき売上増加に貢献しました。米国のIMURAYA USA, INC.とマレーシアのIMURAYA MALAYSIA SDN. BHD.においても、海外市場での販路拡大とブランド価値向上を目指すとともに、「あずきバー」発売50周年の販売促進活動を積極的に展開し、更なる成長戦略に取り組んでおります。

以上の結果、冷蔵カテゴリーの売上高は39億58百万円（前年同期比5.9%増）となりました。

(点心・デリカテゴリー)

「肉まん・あんまん」などの点心・デリカテゴリーは、4月～6月が需要の最も少ない期間であります。高付加価値商品を中心にコンビニエンスストアでのスチーマー販売が増加しました。

以上の結果、点心・デリカテゴリーの売上高は5億22百万円（前年同期比55.2%増）となりました。

(スイーツカテゴリー)

スイーツカテゴリーでは、コロナ禍からの個人消費の回復とともに集客数も増加し、「La maison JOUVAUD（ラ・メゾン・ジュヴォー）」各店舗の売上は前年同期を上回りました。「アンナミラズ」では前年の8月31日に「アンナミラズ高輪店」を閉店した影響により売上は減少しましたが、2023年6月13日にアンナミラズ日本上陸50周年を迎えるにあたって、横浜高島屋において6月に期間限定でポップアップショップを出店しました。また、6月13日にはバーチャルショップをグランドオープンし、お客様に感謝の気持ちをお伝えするとともに様々なブランドの活用を展開しております。

以上の結果、スイーツカテゴリーの売上高は1億1百万円（前年同期比19.4%減）となりました。

(VISON（ヴィソン）カテゴリー)

VISON（ヴィソン）カテゴリーでは、三重県の水と酒米、酵母を使用し、テロワール*に根差した日本酒の製造・販売を行う「福和蔵」と、和菓子を販売する「菓子舗井村屋」の2店舗を三重県多気町の大型商業リゾート施設「VISON（ヴィソン）」内にて運営しております。「福和蔵」においては、「福和蔵 純米大吟醸」が5月に世界的に最も権威のある審査会の一つであるIWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）2023 SAKE（日本酒）部門「純米大吟醸酒」カテゴリーにおいてゴールドメダルを受賞し、高い評価をいただきました。「菓子舗井村屋」においては、「酒々（ささ）まんじゅう 芳醸菓」や特色のある季節限定商品を店舗にて販売し、好評を得ております。

以上の結果、VISON（ヴィソン）カテゴリーの売上高は28百万円となりました。

*テロワールはワイン等の生産に関わる生育地の「土地の要素」「気候の要素」「人的要素」を総合した生産環境のことを指し、味覚を決定する重要な要素とされています。

② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、家庭内食向けの商材と機能性素材のOEMが順調に推移しました。

中国での調味料事業は、コロナ禍からの経済回復の遅れもあり、中国国内の売上が減少しました。

以上の結果、調味料事業の売上高は10億62百万円（前年同期比1.2%増）となり、セグメント利益は1億51百万円（同9.0%減）となりました。

③ その他事業

イムラ株式会社においてSDGsの一環として井村屋商品のアウトレット販売を行っている「MOTTAINAI屋」は、引き続き地域のお客様に好評いただいております。また、「ソフトアイスクリーム&スイーツ店WaiWai（ワイワイ）」においては、「アンナミラーズ」の「アップルパイ」や季節のデザートなども販売し売場の活性化を図りました。

以上の結果、井村屋グループ株式会社の賃貸事業を加えた、その他事業の売上高は53百万円（前年同期比4.7%増）となり、セグメント利益は10百万円（同54.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は355億26百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億19百万円の増加となりました。流動資産は、販売増加に伴う売掛金や棚卸資産の増加などにより、9億98百万円増の137億34百万円となりました。固定資産は、投資有価証券の時価の増加などにより、4億20百万円増の217億92百万円となりました。

負債は171億33百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億10百万円の増加となりました。流動負債は、短期借入金の増加などにより、16億17百万円増の145億38百万円となりました。固定負債は、長期繰延税金負債の増加などにより、92百万円増の25億94百万円となりました。

純資産は配当金の支払いなどにより、2億91百万円減の183億93百万円となりました。

その結果、自己資本比率は前連結会計年度末54.7%から51.7%へ減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期に向けて、夏場の主力商品である「あずきバー」の売上増加など、順調に推移する見込みであり、また、冬場の点心・デリ商品の導入計画も順調に進捗しておりますので、2023年5月11日付の「2023年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、景気の停滞や世界的な経済状況の変動、原材料の高騰などの環境変化によって業績予想の修正が必要であると判断される場合は、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,689,190	1,024,218
売掛金	5,506,881	5,854,899
商品及び製品	3,109,594	4,049,088
仕掛品	339,849	390,645
原材料及び貯蔵品	993,321	1,073,903
その他	1,098,141	1,342,662
貸倒引当金	△1,189	△1,220
流動資産合計	12,735,789	13,734,198
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,245,265	19,395,888
減価償却累計額	△11,204,371	△11,224,967
建物及び構築物(純額)	8,040,893	8,170,920
機械装置及び運搬具	18,689,994	18,586,708
減価償却累計額	△14,660,478	△14,635,317
機械装置及び運搬具(純額)	4,029,516	3,951,391
土地	4,253,858	4,351,538
その他	3,193,792	3,293,255
減価償却累計額	△1,171,013	△1,211,875
その他(純額)	2,022,779	2,081,380
有形固定資産合計	18,347,048	18,555,230
無形固定資産		
リース資産	127,051	117,549
その他	42,700	37,632
無形固定資産合計	169,751	155,182
投資その他の資産		
投資有価証券	1,482,989	1,649,487
退職給付に係る資産	917,445	917,895
その他	466,979	526,797
貸倒引当金	△12,756	△12,362
投資その他の資産合計	2,854,658	3,081,816
固定資産合計	21,371,458	21,792,229
資産合計	34,107,247	35,526,428

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,739,475	2,936,221
電子記録債務	1,864,294	1,669,726
短期借入金	2,600,000	4,650,000
1年内返済予定の長期借入金	100,536	75,603
未払金	3,746,564	3,488,112
未払法人税等	626,512	86,366
賞与引当金	601,187	370,242
その他	642,227	1,262,054
流動負債合計	12,920,797	14,538,326
固定負債		
執行役員退職慰労引当金	56,580	51,078
退職給付に係る負債	38,472	38,866
資産除去債務	142,055	142,345
その他	2,264,910	2,362,582
固定負債合計	2,502,018	2,594,871
負債合計	15,422,816	17,133,198
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,576,539	2,576,539
資本剰余金	3,810,519	3,809,656
利益剰余金	9,841,358	9,515,269
自己株式	△4,221	△4,490
株主資本合計	16,224,196	15,896,976
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	201,956	318,351
土地再評価差額金	1,930,419	1,930,419
為替換算調整勘定	13,953	△50,845
退職給付に係る調整累計額	282,571	268,019
その他の包括利益累計額合計	2,428,901	2,465,945
非支配株主持分	31,333	30,308
純資産合計	18,684,431	18,393,229
負債純資産合計	34,107,247	35,526,428

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	8,766,957	9,121,862
売上原価	5,638,063	6,098,410
売上総利益	3,128,894	3,023,451
販売費及び一般管理費	3,041,713	3,115,909
営業利益又は営業損失(△)	87,181	△92,458
営業外収益		
受取配当金	25,366	30,653
受取家賃	8,757	8,520
為替差益	185,330	142,057
その他	25,752	25,936
営業外収益合計	245,208	207,167
営業外費用		
支払利息	5,159	12,862
その他	1,903	915
営業外費用合計	7,062	13,778
経常利益	325,326	100,930
特別利益		
投資有価証券売却益	3,444	-
補助金収入	3,660	3,698
その他	3	-
特別利益合計	7,107	3,698
特別損失		
固定資産除却損	2,990	0
特別損失合計	2,990	0
税金等調整前四半期純利益	329,444	104,629
法人税、住民税及び事業税	47,410	59,631
法人税等調整額	61,614	8,146
法人税等合計	109,025	67,778
四半期純利益	220,418	36,850
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,548	△2,557
親会社株主に帰属する四半期純利益	223,967	39,408

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	220,418	36,850
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17,940	116,394
為替換算調整勘定	△5,958	△63,266
退職給付に係る調整額	△17,305	△14,552
その他の包括利益合計	△41,205	38,575
四半期包括利益	179,213	75,426
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	179,981	76,451
非支配株主に係る四半期包括利益	△767	△1,025

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,665,309	1,050,238	8,715,548	51,409	8,766,957
セグメント間の内部売上高 又は振替高	19,027	6,150	25,177	3,799	28,976
計	7,684,336	1,056,388	8,740,725	55,208	8,795,934
セグメント利益	258,260	166,192	424,452	6,850	431,303

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	424,452
「その他」の区分の利益	6,850
全社費用(注)	△344,122
四半期連結損益計算書の営業利益	87,181

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,005,060	1,062,978	9,068,039	53,822	9,121,862
セグメント間の内部売上高 又は振替高	15,846	6,688	22,534	3,615	26,150
計	8,020,906	1,069,667	9,090,574	57,438	9,148,012
セグメント利益	117,772	151,167	268,939	10,593	279,533

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	268,939
「その他」の区分の利益	10,593
全社費用(注)	△371,992
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△92,458

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。